

今号の記事

<2・3面>新春座談会つづき／年男・年女今年の抱負／介護保険充実もとめ奈良市と懇談／医師紹介／看護職員大募集!!／戦争体験手記を募集します／診療案内
<4面>「生きる力と向きあって」／まちがいさがし

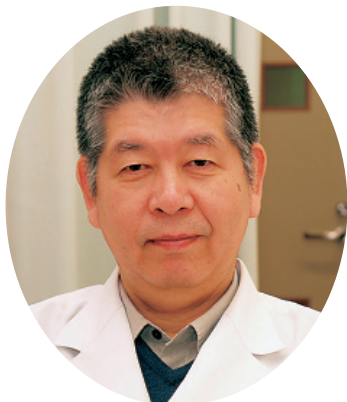
へいわと健康

だれでも、いつでもかかれる、安心・安全の医療をめざして



平和会吉田病院

〒631-0818 奈良市西大寺赤田町1-7-1
医療法人平和会吉田病院 法人事務局
発行責任者 常務理事 田中義夫
☎(0742)45-4601(内線216)FAX(0742)45-5085
http://www.heiwakai.or.jp/



医療法人平和会 理事長 市川 篤

今年も平和会・吉田病院は、
健康で不安なく暮らせる
まちづくりを目指します

長年にわたって続いた構造改革路線で、格差と貧困は拡大し、医療崩壊に至りました。民主党新政権は国民が託した声よりも財界やアメリカの要求優先に回帰し、野田政権は暴走しようとしています。1%の人に富が集中する市場原理主義の謳歌ではなく、99%の人が安心して暮らせる社会の基は、社会保障です。東日本大震災の復興と福島原発事故の放射

能被害救済で問われている国民的課題も誤魔化されようとしています。「社会保障・税の一体改革」は消費税導入の口実です。消費税ほど弱者を苦しめる邪悪な税制はありません。日本の大企業には300兆円の内部留保があります。国が国民の立場になれば、富の集中から所得再配分の流れを強められます。雇用改善と所得増など内需拡大型の社会こそ求められます。

今年は医療保険と介護保険の同時「改善」が予定されています。私たちは超高齢化社会に立ち向かい、地域の皆さんの支えになり、安心して住み続けられる街づくりを目指す決意です。



写真・平城宮跡の白梅

新春座談会

新病棟完成で、地域の要求にこたえる医療をめざします



新年を迎えるにあたって、精神科新病棟について吉田病院院長永松孝志・精神科救急病棟部長徳永浩之・精神科外来師長西村弘子による座談会の様子を通じて、ご紹介させて頂きたいと思います。

皆さん新年あけましておめでとございます

永松 おめでとございます。本年も宜しくお願いします。今年は永年の悲願が実現する年となります。

徳永 精神科棟のリニューアルですね。

永松 そうです。ここ数十年の変化だけでも、精神科のかなり方・医療者側の評価の仕方が大きく変わってきました。以前は、統合失調症の方や気分障害の方で外来はほぼでした。現在はその当時

に入院した方が高齢となり、退院後の地域環境も変わりました。

西村 ただ、今のままでは、現在の求められる医療に対応するのに限界となってきました。

永松 そう、これまでの変化に病院施設の賞味期限が切れ

た状態です。以前のように治療のためと長期間入院をするのではなく、地域社会の中で生活ができるように変わってきました。

徳永 リニューアル後、精神科救急病棟も変わります。

永松 そもそも現在の精神科救急病棟は、既存の物を無理矢理救急病棟へ転換したため、充分に活用出来ていないのが現状です。医師も満足した精神科医療が提供できなかった。これは医療機関として問題であり、今回の好機にゆとりとした病棟作りを行っていきます。

西村 他の病棟もかなり古くなりましたからね。

永松 そうそう、老朽化した冷暖房では皆様に迷惑をかけています。そんな問題も一挙に解決できると考えています。他にも認知症の方を受け入れるために施設の変更が必要となってきました。その

(2面つづく)

へいわの丘

放射能が半減するのに約30年かかるストロンチウムが大量に放出されたことが今になって東電から発表された。セシウムのガンマ線とちがいで、ストロンチウムが放出するベータ線は検出が困難で、骨に取り込まれ体内から遺伝子を傷つける危険度はセシウムの比ではない。真実が隠された原発事故の被害は今後も目が離せない。更にこの危険な原発を輸出しようとする政府は一体何を考えているのか、政府は今でも原子力村の言いなりではないか。▼首相はISD条項始めTPPの内容も知らないままに交渉参加を選択した。今後米企業から大量の食品、遺伝子組み換え農産物や危険な大量薬物が飼育された養殖肉がこれまでに以上に無表示で大量に輸入される。皆保険制度や食品の安全基準など日本の制度が壊され、米国に合して行く方向を首相は選択したのだ。この首相が率いる政府は一体何処の国の政府か、沖縄の基地問題でも米国の言いなりではないか。▼今年は、TPP、沖縄、原発、放射能、復興、資本主義、格差、消費税、医療保険、食品の文字を新聞で見つければ、注意深く読んで行こう。